

親鸞聖人・法然聖人の旧跡日帰り巡拝しおり

1. 目的	親鸞聖人・法然聖人の旧跡日帰り巡拝
2. 巡拝地	東塔・西塔エリア（釈迦堂と常行三昧堂）→ 東塔（根本中堂・戒壇）
3. 所在地	大津市坂本本町・京都市左京区八瀬秋元町
4. 巡拝日程	2025年5月10日（土）、17日（土）

注意：祖師の旧跡を参拝する意義を理解したうえで、僧侶にふさわしい言動を心掛けて下さい。
 常行三昧堂の堂内参拝も許可頂いております。（布袍・輪袈裟・念珠を持参）
 恭敬の心を忘れず、ゴミなども持ち帰るようにしましょう。

8：37発 叡山電鉄出町柳駅（8：30集合）

5月17日は 修学院駅で下車、徒歩で雲母(きらら)坂を経てケーブル比叡から先は同コース

8：51着 八瀬口駅前（標高116m）⇒ 9：00発 ケーブル八瀬口駅（標高135m）

↓ 標高差555m

9：09着 ケーブル比叡（標高690m）

↓ 標高差65m

9：30頃 東塔・根本中堂・巡拝券購入（標高625m）

10：30頃 山王院（標高715m）

↓ 標高差45m

11：45頃 西塔・釈迦堂とにない堂（標高670m）昼食

↓

12：10頃 にない堂標高（670m）

13：00 常行堂の堂内参拝

13：45頃 行者道を経て（余裕があれば瑠璃堂）

↓

14：30頃 東塔・根本中堂・戒壇・阿弥陀堂

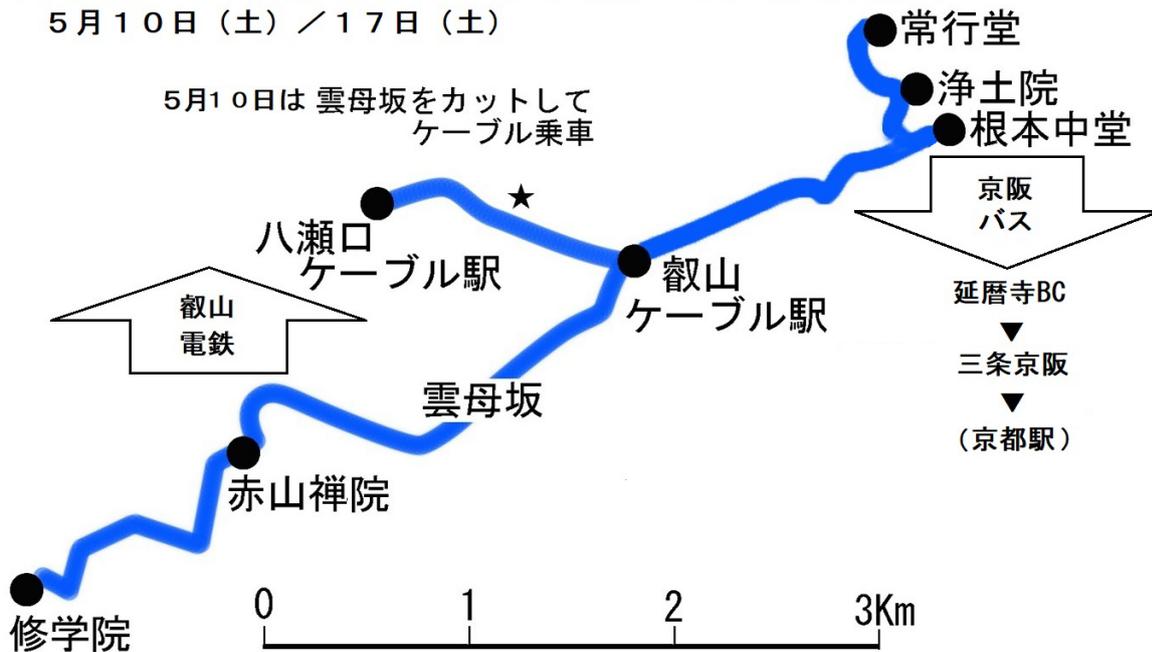
↓

16：11発 延暦寺バスセンター：京阪バス[57]（京都駅行き）（次発17：11）

17：20分頃 三条京阪（17：40分頃 京都駅）

雲母坂から東塔を経て西塔（常行三昧堂特別拝観）

5月10日（土）／17日（土）



比叡山西塔 常行三昧堂

親鸞聖人ご修行の地。(当時は横川の常行三昧堂で修行されていたとも言います)

西塔の伽藍の中で「にない堂」と呼ばれるのが常行堂と法華堂です。天台宗の修行の中、止観業としての四種三昧があります。具体的には、常坐三昧、常行三昧、半行半坐三昧、非行非坐三昧の四つの止観業です。その中の二番目の常行三昧は『般舟三昧経』を拠り所とする修行で、阿弥陀仏を観ずるものであって、常行三昧堂で行われます。

『般舟三昧経』を引用した天台大師智顛講述の『摩訶止観』第二巻には

「九十日、身は常に行じて休息なく。九十日、口は常に阿弥陀仏を唱えて休息なく。九十日、心は常に阿弥陀仏を念じて休息なし。」

「歩々、声々、念々、ただ阿弥陀仏にあり。」とあります。

親鸞聖人の妻・恵信尼さまが書かれた手紙に「殿(親鸞聖人)の比叡の山に堂僧つとめて在しましけるが」とあるように、親鸞聖人の修行の地であったと考えられています。



にない堂と渡り廊下



常行三昧堂

瑠璃堂(るりどう)

西塔北谷にある瑠璃堂へは西塔の釈迦堂の左奥の石段を左に登り、10分余の山道を歩きます。途中には相輪とうへの別れ道や比叡山ドライブウェイの横断がありますが、車道の横断には標識が無いので充分に注意が必要です。

元龜2年(1571)9月2日の織田信長による焼討ちの兵火を免れた現存唯一の建物といわれる貴重な建物で、室町時代末期の建立と推定され、国の重要文化財に指定されています。比叡山延暦寺の堂宇としては珍しく唐様が施された入母屋造り檜皮葺の建物で、三間四方の正方形の大きさです。薬師瑠璃光如来が本尊としてお祀りされています。

西塔北谷にあった古仙の靈崛に最澄が自作の薬師如来を安置したのが始まりと伝えられています。

元慶(がんきょう、877~885)年代の頃、本尊が光を放ち京の都を照らしたので、時の天皇、陽成天皇(ようぜいてんのう)が不思議に思い、その光を尋ねたところ、ここに辿り着いたので、この寺が放光院の号を賜ったという逸話が残っています。(滋賀県大津市のホームページから転載)

